

「確かな学力を育む高校教育推進事業」中間報告書 [平成23年度]

学校名	北海道	天 塩	高等学校	(全・定)	校長名	志 佐 彰 彦
-----	-----	-----	------	-------	-----	---------

1 研究授業の実施状況

実施日	教科	研究テーマ	参観者数	
平成23年10月26日(水)	地歴・公民	基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	自校 2人	他校 2人
平成23年11月24日(木)	地歴・公民	基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 (留萌管内高等学校地歴・公民科教育研究会を兼ねる)	自校 2人	他校 10人
研究授業実施の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科内で互いに刺激し合い、基礎基本の定着を図る授業内容の在り方について研鑽を深めることができた。</li> <li>・留萌管内高等学校地歴・公民科教育研究会を兼ねて研究授業を実施し、研究協議において、他校教員の客観的な視点を踏まえ、本校の取組の成果について確認することができた。</li> <li>・研究授業では、研究テーマを更に一歩踏み込んで、思考力・判断力・表現力の育成というテーマも盛り込んだ実践を発表することができた。</li> </ul>			

2 学力向上サポートチームの活用状況

実施日	教科	内 容
平成23年10月26日(水)	地歴・公民	研究授業、本校のこれまでの取組及び本事業の取組に係る助言
平成23年11月24日(木)	地歴・公民	留萌管内高等学校地歴・公民科教育研究会を兼ねた研究授業及び研究協議に係る助言
平成23年12月16日(金)	地歴・公民	授業力向上に係る校内研修会の実施状況及び実践研究の進捗状況の確認を踏まえた中間報告に係る助言
平成24年1月23日(月)	地歴・公民	本事業への取組のまとめ(中間報告)及び次年度の計画立案に係る助言
サポートチームの効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマに基づいた教科指導の在り方についての具体的な助言を受けたことで、授業改善に向けた取組の方向性が明確になった。</li> <li>・地歴公民科の授業改善の取組を各教科に広めていく方向性についての助言を踏まえ、生徒による授業評価等に係る校内研修を実施し、取組状況の周知や授業改善に向けた各教科の取組に係る啓発を図ることができた。</li> </ul>	

3 実践研究の取組状況

(1)共通研究課題

項 目	平成 23 年度 の 取 組 内 容
1 学力等実態調査を活用した学力の把握と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力実態調査の実施と調査結果の分析による課題の明確化</li> <li>○各教科における授業改善の方策の検討</li> <li>○研究授業の実施</li> <li>○全教科・科目における生徒による授業評価の実施</li> <li>○校内研修会における生徒による授業評価及び授業改善についての研究協議</li> </ul>
2 生徒や教員相互による授業評価などを活用した、PDCAサイクルに基づく授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒による授業評価の手法確立</li> <li>P: 指導計画、評価計画の作成</li> <li>D: 計画に基づく授業の実施</li> <li>C: 生徒による授業評価(9月、1月(3学年)、2月(1・2学年))</li> <li>A: 校内研修会の実施(評価結果の分析及び改善に向けた方策の検討)</li> </ul>
3 学習習慣の定着や学習意欲の向上のための指導方法、教材等の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習習慣の定着                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習オリエンテーションによる啓蒙</li> <li>・週末課題や朝学習の実施と評価の研究・実践</li> <li>・3科目コンクール(国語・数学・英語)の実施・表彰</li> </ul> </li> <li>○学習意欲の向上                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材の活用</li> <li>・習熟度別学習の指導内容及び課題・評価の工夫</li> <li>・生徒が主体的に学ぶ授業の研究・実践</li> </ul> </li> </ul>
4 到達目標の設定及びその目標を踏まえた評価規準の見直し・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多角的な評価規準による評価の工夫・実践                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査等による評価の工夫</li> <li>・授業における評価の工夫</li> </ul> </li> <li>○学校評価(自己評価、学校関係者評価(保護者・学校評議員・地域))を生かした授業改善                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標や評価規準の工夫改善</li> </ul> </li> </ul>

(2)実践研究課題

実践研究テーマ1	記号(ア)	各教科における、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る指導方法等の工夫・改善
実践研究教科等	平成 23 年度 の 取 組 内 容	
地理歴史科 公民科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○シラバスの活用による指導方法の研究                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への動機付けを図り、計画的・意欲的な学習活動を支援する学習指導の工夫</li> <li>・ノートの取り方・作り方、家庭学習の取組みなど、授業理解につながる学習指導の工夫</li> <li>・「聞く」「書く」「読む」「話す」場面を考慮した学習指導の工夫</li> </ul> </li> <li>○効果的な学習指導に関する研究                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導方法の工夫</li> <li>・基礎学力定着のための指導方法の工夫</li> <li>・学習意欲を喚起する授業・評価の在り方についての見直し</li> <li>・学習習慣を定着させるための課題・評価の工夫</li> </ul> </li> <li>○授業改善に生かすための適確な評価方法の研究                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価の工夫・実践</li> <li>・校内研修会における授業形態・評価方法の研究</li> </ul> </li> </ul>	

4 目標指標の達成状況

指標	評価の方法	期待される成果	基準値 (事業実施前の状況)	平成23年度末の状況	達成度
生徒の学力把握の状況	・学力等実態調査の調査結果	設定通過率に達した設問が、国語・50.0%、数学・50.0%、英語・40.0%に到達する。	国語・47.2% 数学・43.4% 英語・31.8%	国語・57.4% 数学・50.5% 英語・36.3%	☆
	・学習状況等の調査結果	家庭学習の時間が1時間以上の生徒の割合が100%に達する。	42.60%	43.00%	◎
		項目「学習に積極的に取り組む意欲がある」に肯定的に回答する生徒が20.0%増加する。	48.10%	49.30%	△
	・学習の成績	成績上位者数が学年の50.0%に到達する。	1年生32.1% 2年生14.0% 3年生44.2%	1年生〇% 2年生〇% 3年生〇%	
		成績不振者数が減少する。	1年生5人 2年生6人 3年生0人	1年生〇人 2年生〇人 3年生〇人	
	・各種検定試験等の受験者と合格率	受験者数・合格率が10%増加する。	受験者数468人 合格率49.6%	受験者数〇人 合格率〇%	
	・生徒による授業評価の評価結果	項目「授業の内容がわかる」に肯定的に回答する生徒が80%に達する。	1年生87.7% 2年生94.2% 3年生82.2%	1年生〇% 2年生〇% 3年生〇%	
基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るための取組み状況	・教職員の各種研修会への参加状況	参加・出席者が増加する。	23人	32人	☆
	・シラバスにおける基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に関する記載内容	全科目のシラバスに基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得の評価について記載する。	記載なし	2科目記載	△
	・生徒による授業評価において、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に関する項目の評価結果	項目「授業において、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができた。」に、肯定的に回答する生徒が100%となる。	—	1年生〇% 2年生〇% 3年生〇%	
	・校内研修会の内容	「生徒による授業評価」について年1回実施する。	0回	1回	☆
	・公開授業週間の実施と授業評価の活用	授業評価の結果及び合評会の活用による授業改善プログラムの確立	合評会0回	合評会1回	◎
	・朝学習等の実施による学習習慣の確立	学年団ごとに実施し、全校生徒の学習習慣を確立する。	—	全学年で実施	☆

達成度は、☆:5割以上達成 ◎:3割以上達成 ○:1～2割達成 △:達成度1割未満 ▼:マイナス で表記すること

○ その他の成果

・地歴公民科においては、本事業のテーマに係る研究実践に加え、思考力・判断力・表現力の育成や言語活動の充実を目指した実践に取り組むきっかけとなった。  
 ・生徒による授業評価について校内研修会を実施し、本事業の実践研究教科に限らず、全ての教科・科目の教職員に対して、授業改善に向けた指導方法や指導内容等について、自己評価及び検証する機会を設けることができた。

5 平成23年度における課題

・学力向上に係る本事業の取組を学校全体の取組として拡大していくことで、教職員全体の研修に対する意識を高揚していくこと。  
 ・家庭学習の習慣化を促す教科指導の取組の工夫・改善と、その評価方法や評価規準等の記載も含め、シラバスを充実していくこと。  
 ・「わかる授業」の構築に努めるとともに、生徒が積極的に学ぶ意欲を高めるために、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を実現する授業実践を研究していくこと。

6 成果の普及方法

・年度末反省や年度初めの諸会議において教務部から本事業の取組について提示するとともに、校内研修会の実施により教職員の共通認識を図り、「わかる授業」の実践に取り組む。  
 ・各種研究協議会や学校のWebページ等を通じて、本事業の成果等について広く情報発信する。

※欄の大きさは適宜変更してもかまわない。